

徽雨の候 宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部会員の皆様には益々ご清福の段 大慶至極に存じ上げます。

日頃より皆様には、当支部運営に当たり特段のご高配を賜り、感謝申し上げる次第です。

過ぐる5月3日にオルブライトホールで開催した憲法改正セミナー「自衛隊さんありがとう」には大勢の当支部会員にもご参加を頂き、約400名の参加者で盛会の上、井上和彦講師の本も沢山売れて大盛況でした。

新聞を始めマスコミも数社が取材に来て、翌日の朝刊に同日開催の「九条の会」のイベントと同文量で掲載されていましたが、内容は我々の方が随分勝っているように感じました。．．．(^_^)

また13日は「#37周年えびの駐屯地祭」が雨天決行され、模擬戦が始まる頃に漸く晴れ上がり、今度は蒸し返す暑さの中で敵侵攻部隊を撃破した展示隊員諸官は誠にご苦労様でした。

さても国会は相も変わらず「モリ・カケ」狂想曲に明け暮れて、「云った・云わない」や「文書の有無」、そしていくら説明しても「信用出来ない」の一点張りにうんざりし仕方なくTVを消します。

一体野党は一日4億円とも、5億円とも云われる国会審議を何と考えているのか、自らが提出した法案審議にも応じようとせず、安倍総理や夫人、また加計氏に違法性があるならば当然司直の手に委ねるべきであり、まるで国会TV中継をワイドショー化して安部政権の支持率を下げようとするも思うに任せず、なかなか下がらぬ支持率は自らに跳ね返ると云う醜態を繰り返しているかのようです。

そんな中、業を煮やした一自衛官が下記の事案を生起させ、またワイドショーを盛り上げましたが、その顛末について小川先生のメルマガで詳報されましたので以下に転載します。

皆様の本音のご意見をお聞かせ願えれば幸いです。

・法を盾にした横暴が暴力主義を生む

国会議員に暴言を吐いたとして、幹部自衛官が処分されました。

「幹部自衛官が小西洋之参院議員に暴言を吐いた問題で、防衛省は8日、『ばか』などと発言し、品位を保つ義務に違反したとして、統合幕僚監部に所属する30代の男性3等空佐を訓戒処分とした。小西氏が主張する『お前は国民の敵だ』との発言については、主張の食い違いから認定を見送った。

訓戒処分は、昇任に直接影響する懲戒処分には至らない処分。同省は処分理由について、総合的に判断したとしている。その場で発言の撤回と謝罪が受け入れられたことも考慮したという。

防衛省によると、3佐は4月16日夜、勤務後のジョギング中、東京・永田町の参院議員会館前で、小西氏に遭遇。口論になり、小西氏に『日本の国益を損なうことをしている』『ばかなのか』などと発言した上で、『気持ち悪い』とののしった。

3佐は小西氏について、安全保障関連法に反対しているイメージがあったといい、『国のために働け』と大声を出したことから口論になったという(5月8日付時事通信)

この報道に、「処分が軽い」といった声も寄せられています。

しかし、防衛省は独自に現場を再現する試みまで行い、本人の事情聴取を丹念に行ったうえ、処分を決めています。

それを踏まえれば、そして本人は西部航空方面隊司令部に転属させられ、事実上の左遷の扱いを受けたとされることを考えれば、処分は決して軽くないと思います。

そこで、ひとつ言いたい。国会議員の暴言や虚言を放置してよいのかと。

確かに、国会審議における発言が責任を問われないことは、憲法第51条で保障されています。

「両議院の議員は、議院で行った演説、討論又は表決について、院外で責任を問はれない」

だから、それをよいことにあきれ果てるような発言が飛び交ったりします。これは与野党を問いません。

しかし、国会審議以外で行った発言や発信については、野放しにしてよいものではありません。

そうした法を盾にした横暴な姿勢が、それを打開するには「力」しかないという暴力主義を生み出したこと、そして、いったん暴力が荒れ狂い出せば、法など吹き飛んでしまうことは、歴史が示しているとおりで。

幹部自衛官に暴言を吐かれたとする小西議員も、かつて2015年9月30日のツイッターで「自衛隊員は他国の子供を殺傷する恐怖の使徒になるのである」と発信しており、そうした発信が暴言事件を誘発した可能性は否定できないものです。

ツイートした翌日(2015年10月1日)、小西議員はツイートを削除し、「安倍総理の安保法制により、自衛隊の集団的自衛権行使を受ける国の子供達は自衛隊員を『恐怖の使徒』と思うだろう。違憲立法から自衛隊員を救わなければならない」との投稿に差し替えています。

言い過ぎた、まずいという自覚があったのだと思いますが、小西議員は**発信に対する責任**を明確に、それも公式に**示すべきだ**と思います。

小西議員のケースとは別に、国会審議中であっても**虚偽の質問や答弁**があった場合、いかに発言者が法的保護を受けていようとも、マスメディアは**ファクトチェックの対象**として取り上げ、**報道すべき**ではないかと思います。

例えば、希望の党(当時)の**柚木道義衆議院議員**などは2月19日、次のような**虚偽の質問**を安倍首相に浴びせています。

「皆さんもよくご存知かと思いますが、軍事評論家の**小川和久さんのツイッター**です。わたくしの質疑後すぐに、その当日ですよ。この、ここに書かれていますね、あのY記者は**安倍さんと最も親しいジャーナリスト**、仲人も**安部さん**なのだ、かっこ笑い。この、**5年も以上前**のですね、**ツイートを、私の質問の直後に、削除**してんですよ。そしてその理由をわざわざ、**ネットが大炎上**してですよ、**会員、1000円払ったら会員**になれるんですよ。その人達だけに、**言い訳**をしてんですよ。その言い訳もすごい言い訳なんですよ。そもそもこの削除したことは、**安倍総理に迷惑**がかかるからと。つまり認めてるんですね自分が書かれてるこの事実関係については。しかもですね、こういう風に**答弁すればよかった**とかいうようなことまで書かれてですよ、こういうことが実際起こっていて、これまあ分かりませんが近々ですね、仲人されて**安倍総理がスピーチ**をされた、わたしもその現場に行かれた方々から**複数証言**をいただいております」

これについては、自民党と公明党の国対の責任者から確認を求められ、発言を取り消させてはどうかという声もありました。

虚偽の質問が国会の議事録に残り、歴史を歪曲してしまうことを考えれば、発言の取り消しを求めておくべきなのかもしれませんが、忙しいこともあり、いまのところ**FIJ(ファクトチェックイニシアチブ・ジャパン)**のサイトに公開するにとどめています。FIJでは私のメルマガを確認のうえ、次のように**認定**しています。

当該ツイートを削除した理由については「親しい関係ではないと言っても旧知のY記者が渦中にある性的暴行の疑惑は、私にとって愉快なものではなかったのです。そんなこともあり、そのような事件の関連として私のツイートが**注目されるのは避けたい**と判断し、削除したのです」「私は不愉快な事件と関わりたくなかっただけです」と説明しており、「**総理に迷惑**がかかるから」という趣旨のことは**記されていない**。

このような**国会の有様**です。とりわけ、**ファクトチェックに関心**を持っているように見える朝日新聞に聞きたい。

日本のジャーナリズムの先頭を走っているという自覚と使命感があるのなら、大物ではない議員の発言であろうともチェックし、地道な積み上げをしてほしい。せっかく「ファクトチェック」と謳って大きなスペースを割いても、識者インタビューなどの「論」の類いばかり掲載しているようでは、自己満足に終わってしまいます。奮励努力を期待します。 以上

巨大メディアは「報道せぬ自由」とか称して自分たちの都合の良いようにルールを変更し、世論操作を試みますが、我々もそんなに愚かではなく本当に必要な情報は新聞やTVから得られぬ事を既に知っています。

だから安倍政権の支持率も大きく下がらぬのでしょうし、巨大メディアと結託した野党の悪巧みが手に取るように判るから、辟易してTVを消してしまうのでしょう。

野党の皆さんが「安倍政権下での憲法改正に反対」などの子供じみたシュプレヒコールを叫ぶことが悪巧みの何よりの証左であり、我々には整合性の無い議論に与する暇はありません。

暴言を吐いたとされる自衛官も「服務規程」は熟知の上、やむにやまれぬ思いでその心情を吐露したのでしょうし、暴言を受けたとされる参議院議員も過去の発言では、まるで自衛隊員をかばう素振りをして国家や自衛隊に対して暴言を浴びせているかのようです。

現役自衛官の皆様にはここはひとつ隠忍自重をして頂き、防衛協会青年部会の我々がその皆様の気持ちを「忬度」しながら、大胆に発言やら行動を起こさねばならぬと考えます。

トランプ大統領と金正恩の米朝首脳会談は日本にどのような影響をもたらすか、全く予断を許しません。軍事的に最悪の事態を想定して最善策を講じられるのは勿論陸海空自衛隊しか存在せず、半島有事の際は彼等が直ちに立ち上がれるよう憲法改正も含めた法整備や体制構築は待ったなしで、本当に急がねばなりません。

今月正会員のみと同封させて頂いた「自衛隊明記を考えたみた」の漫画本は大変判りやすく書かれていますので、読了後はご家族や友人にも回覧して貰えれば幸甚に存じます。

暫く鬱陶しい毎日が続きますが皆様体調管理を万全に、暑い夏に備えて何卒ご自愛下さい。

平成30年6月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉 和彦

